

## 9.香川県ブラジル派遣研修事業

この事業は、前川知事の英断により1980年度(昭和55年度)に発足した。

事業の目的は、「香川県立農業大学校生並びに農業高校生を、将来の世界食糧供給国として急速な農業発展を続けるブラジル国に派遣し、中核として活躍している県出身者の農場において、企業的農業経営を実地に学習することにより、相互の親善交流を深めるとともに、国際化時代に対応し得る農業後継者の育成等に資することを目的とする。」(昭和55年度実施要綱第1条目的抜粋)ものである。

事業の実施にあたっては、ブラジルでの受入農家をどのように決めるか、現地での自己負担を少なくする方法はあるか、受入農家での農業実習や宿泊施設はどうなるのか等々問題も多く、文書でのやりとりではうまくいかない課題が山積していた。そこで当時、農林部次長佐藤進氏は、この事業を円滑に進めるため、1980年(昭和55年)6月4日から6月28日まで南米各地へ海外出張した。そして、県出身農業移住者宅を訪問し、その活躍状況を見聞して、第1回生として、農業高校生10人、引率者1人を、夏休み期間中に約1ヶ月間ブラジル国へ派遣研修できる事前準備調査が行われた。

第1回ブラジル派遣研修生は、県立農業大学校および県立高等学校の各校長から推薦された優秀な学生、生徒10人と引率指導者1人および団長の総勢12人の編成であった。この団員を対象に、ブラジル語(ポルトガル語)の学習など、事前研修と準備のため6回の研修会等を重ね、携行荷物の準備と共通経費200ドルと小遣い500ドルを換金するなど事前準備を整え、結団式、壮行会を行い、井上副知事の激励の訓示を受け出発し、24日間の研修日程で所期の目的を達成して全員無事帰国した。

## 第1回(昭和55年)ブラジル派遣研修生日程

(第1回～第19回まで実施した。第1回の日程を代表例として掲載)

日数	月日	曜日	都市名	現地時間	交通機関	行動及び研修内容	摘要
1	7/29	火	高松発 東京着	10:25 16:56	宇高連絡船 新幹線 ひかり132		東京讃岐会館 泊
2	7/30	水	東京発	18:00	RG831	13:00 宿舎発 14:00 箱崎シテイ ターミナル発 16:00 成田空港着	機中泊 ロサンゼルス、 リマ経由
3	7/31	木	リオ・デ・ジャ ネイロ着 リオ・デ・ジャ ネイロ発 サンパウロ着	7:50 8:30 9:30	小型機に のりかえ	・新聞社訪問 (日伯毎日、サンバ ウロ、パウリスタの 3社) ・ブラジル日本文化 協会訪問 ・国際協力事業団サン パウロ支部訪問 (平尾国際協力事 業団サンパウロ支 部長の講話)	到着後BANRI HOTELへ ホテルからは 徒歩で訪問する BANRI HOTEL (萬里ホテル) RUA GALVÃO BUEN209 SÃO PAULO TEL:279-5193
4	8/1	金	サンパウロ		車	・花市場見学 ・コチア産業協同組 合訪問(スライドに より小関広報部長 の講話) ・大学都市見学 ・ブタンタン毒蛇研 究所の見学	宿泊 BANRI HOTEL
5	8/2	土	サンパウロ		車	・移民資料館とサン パウロ市内の見学	宿泊 BANRI HOTEL

日数	月日	曜日	都市名	現地時間	交通機関	行動及び研修内容	摘要
6	8/3	日	サンパウロ		車	・香川県人家族慰安ピクニックに参加して、県人と交歓	宿泊 BANRI HOTEL
7	8/4	月	サンパウロから グアタバラへ 萬里ホテル発 県人会館経由 S.Pバスステーション発 リベイロン・フレット市着 リベイロン・フレット市発 グアタバラ着	8:00 10:00頃 15:00頃 15:00 16:00	バス   連絡所の車	・香川県人会館にトラックを預ける ・バスにて、グアタバラ、ブラジル拓殖、青年練習所に行く ・夕方入所 ブラジル農業と移住について (近藤、吉崎理事)	宿泊 グアタバラ ブラジル拓殖 青年練習所
8	8/5	火	グアタバラ			受入農家で実習	宿泊 受入農家
9	8/6	水	グアタバラ			受入農家で実習	宿泊 受入農家
10	8/7	木	グアタバラ訓練所発 リベイロン・フレット着 リベイロン・フレット発 S.Pバスステーション着 県人会館へ 県人会館発 スザノ方面の 県人会農家へ	8:00 9:00 9:30 14:30 16:00頃 18:00頃		・朝退所 ・ブラジル香川県人会館に集合 ここで受入農家の人を紹介して配属 (受入農家の車に分乗する)	宿泊 受入農家
11	8/8	金	モジダス・クルーゼス スザノ			・各受入農家で実習	宿泊 受入農家
12	8/9	土	モジダス・クルーゼス スザノ			・各受入農家で実習	宿泊 受入農家
13	8/10	日	モジダス・クルーゼス スザノ			・各受入農家で実習	

日数	月日	曜日	都市名	現地時間	交通機関	行動及び研修内容	摘要
14	8/11	月	サンパウロ発 リオ・デ・ジャ ネイロ着	11:00 11:55	RG691	・各受入農家より、県 人会館経由サンパウ ロ空港に10:00ま でに集合する ・リオ・デ・ジャネイロ 空港到着後ホテル へ(空港→ホテル)	宿泊 CALIFORNIA HOTEL AV. ATLANTICA 2616 RIO DE JANEIRO TEL257-1900
15	8/12	火	リオ・デ・ジャ ネイロ		小型バス	・リオ・デ・ジャネイロ 市内見学 (8時間のコース)	宿泊 CALIFORNIA HOTEL AV. ATLANTICA 2616 RIO DE JANEIRO TEL257-1900
16	8/13	水	リオ・デ・ジャ ネイロ発 ブラジリア着 リオ・デ・ジャ ネイロ並びに 試験場見学	11:00 12:35	小型バス	・ブラジリア着後、 市内見学、ブラジリ ア、セラード試験場 視察(試験場の案 内小林氏) ・夜ホテルにおいて スライド上映(セラ ード開発)	宿泊 DAS AMERICAS HOTEL SETOR HOTELEIRO SUL BLOCO DBRASILIA TEL223-4490
17	8/14	木	ブラジリア発 ベレン着	10:00 14:00	VP282	・ベレンでは香川県 人が出迎える ・14:30~17:30 仁科国際協力事業 団ベレン支部長の 講話「北伯農家の 現状」 ・あと受入農家に移 動	宿泊 受入農家
18	8/15	金	ベレン			受入農家で実習	宿泊 受入農家
19	8/16	土				農協青年部員と懇談	宿泊 受入農家
20	8/17	日	ベレン港発 ベレン港着	8:30 12:00	小型船	・午前アマゾン河視察 ・午後市内見学	

日数	月日	曜日	都市名	現地時間	交通機関	行動及び研修内容	摘要
21	8/18	月	ペレン発 マイアミ着 マイアミ発 ロサンゼルス 着	2:30 7:40 10:05 12:03	RG800 WA561	ロサンゼルス市内 観光後ホテルへ	宿泊 MAYFLOWER HOTEL 535 SOUJH GRAND AVE LOSANGELES 90071 TEL624-1331
22	8/19	火	ロサンゼルス 発	11:00	PA001	出国準備	機中泊
23	8/20	水	東京着	14:05		・通関、荷物受取り後、 リムジンバスにて 箱崎のシティーター ミナルまで ・シティーターミナル よりタクシーで 東京讃岐会館	宿泊 東京讃岐会館
24	8/21	木	東京発 高松着	9:24 15:54	ひかり127	高松駅にて解散式 各自郷里に向かう	

搭乗航空機名

RG：ヴァリグ・ブラジル航空 VP：バスター航空（ブラジル国内線） WA：ウェスタン航空（アメリカ国内線） PA：パン、アメリカン航空

第1回のブラジル派遣研修日程は、上記のとおり24日間であったが、ブラジル香川県人会の皆様之余にも心のこもったもてなしを頂き、また現地でのバラエティーに富んだ、工夫をこらした研修をさせて頂くとともに、「母県から孫が来た。」という形容のとおり、親身になっての歓待を頂き、外国の不便を何一つ感じる事が全くないお世話をいただき、当初決意していた親善使節が大変な厄介をおかけすることに終始した有意義な研修旅行であった。

この研修に派遣された研修生は、全員最終学年であり、進路選択を前にして、社会観の高まっているときに、この研修の機会を通じて、実際に農業国ブラジルが見聞できたこと、広い国、経済的に課題があるかと思われる国、多くの民族で構成されている国など、国情の違う外国から日本を省みることができて、日本の長所や特性も実感してきたものである。

また、ブラジル国で移住一世の方々から直接に開拓者精神の心髄、気概や苦心談を承り、また、母県や日本への望郷の想いの深さを感じさせられ、日本観と世界観に大きな幅を加えていただいたものである。さらに、若い生徒達は、香川県人会の皆様のご厚遇に感激ひとしおのものがああり、人間的にも大きく奥行きを付与して頂いたものと痛感している。

「第1回ブラジル派遣研修生の報告書」の前文に書かれている前川忠夫香川県知事のことばを掲載して、この研修事業を発足させて頂いたことに対して、心から謝意を申し上げます。

### 前川知事のことば

これからの時代は、今まで以上に国際間の交流を盛んにし、全ての国との友好親善を強めなければなりません。それだけに、次代を担う若人達の海外での生活体験と学習は、極めて、重要なことでもあります。

私も1979年(昭和54年)5月に、南米のペルー、アルゼンチン、パラグアイ、ブラジルの各国を訪問し、各国の方々との親善に努め、相互理解と交流を深めてまいりました。その際、ブラジルで、本県出身者から、「香川県の若い者に、この将采性ある国の実情を見てもらい、香川県とブラジルのつながりを一層深めたい。」との強い要望を受けてまいりました。そこでこの声にお応えするため、1980年(昭和55年)8月に、香川県立農業大学校並びに、県立高等学校の各学生、生徒10名を、ブラジル国派遣研修生として派遣いたしました。

派遣研修生は、各学校から推薦された優秀な学生、生徒であり、寸暇を惜んで、研修に励み、有意義に終始して、無事帰国いたしました。

ブラジルでは、主として、香川県人会並びに香川県人の方々の格別のお世話になりましたが、この機会に改めて、心から深く感謝申しあげたいと存じます。

ご承知のとおり、これからは、世界的に食糧問題が非常に大きな問題となってまいります。こうした時に、恵まれた自然と広大な土地をもち、将来性豊かな農業に取り組むことができる、唯一の国ともいえるブラジル国で、身をもって農作業を体験したことは、研修生にとって、誠に意義深いものであったと思います。

研修生の皆さんが、この貴重な体験を活用して、国際的な視野と感覚を培いつつ、今後大いに発展されますよう祈って止みません。

昭和56年3月21日 香川県知事 前川 忠 夫

この派遣研修事業は、昭和55年度(第1回)に12人を派遣して以来、毎年派遣研修事業実施要綱を改正制定して、派遣国や日程、派遣期間等を年々変更して実施してきたが、予算面等から平成10年度(第19回)に8人の団員派遣を最後に、19年間続けてきたこの派遣研修事業は、中止された。

この連続19回、19年間に137人の研修生を送り出している。この研修生は、日本から遠く離れた国々でさまざまな体験をし、国際感覚を養うとともに、各地で香川県出身移住者の方々と交流し、友好を深め、それぞれが国際交流、国際協力に対する認識を深めました。この研修生が、貴重な体験学習を生かして、大きくたくましく成長し、ブラジル国をはじめとする諸外国との交流はもとより、香川県国際交流の発展に大きな力となってくれるものと期待されている。

ブラジル国をはじめ、南米各国でご活躍されている香川県出身移住者をはじめ二世、三世の方々の各業界でのますますのご発展とご健勝を心からご祈念申し上げ、また、この事業の成果をあげるために、格別のご尽力を賜った南米各地の香川県出身者の皆様に重ねて深甚の謝意を表すものである。